



桃三小

令和4年度6月号 No.603

令和4年 5月 31日

杉並区立桃井第三小学校

校長 杉浦 敬

自分の物に愛着をもって

小さい頃から大切に使っている物はありますか？

桃井第三小学校の落とし物コーナーには、とてもたくさんの落とし物が届きます。そして、それを年度末に学校の全クラスに回し、もう一度子どもたちに確認してもらいます。それらの落とし物は、比喩ではなく、本当にかごいっぱいに溢れた状態で回ってくるのです。学習用品だけでなく、下着、靴下など身に付ける物や、毎日使っているであろうジャンパーや水筒のような物も一つや二つではありません。名前がないのはもちろんですが、子どもたちに確認しても「思い当たらない」という返答がほとんどなのです。

ご家庭に用意していただき、子どもたちが持ってくる物がたくさんあります。どんな準備物もお金を払って買う物ばかりです。子どもたちには、用意してもらったものでも自分の物という自覚をもって、心を込めて使い込んで欲しいと願っています。使いやすい消しゴム、書きやすい鉛筆、手触りの良い洋服、一つ一つは日常で何気なく使っている物ですが、自分だけが気に入っているというところが少しでもあれば、その物に対する愛着がわいてきます。

私自身の経験で、とても悔やんでいることがあります。長年使っていたブックカバーを引っ越しのタイミングで無くしてしまったのです。くたびれていたので捨ててしまったのかもしれません。

ところが、別のブックカバーを使ってみると、手触りやしおりの幅や本を入れ込んだフィット感が全く違うのです。同じ物を求めましたが、

生活指導主任 知念美和子

今は製造販売されていないようでした。落とし物や無くし物は、名前が書いてあれば、自分のところに戻りやすくなりますが、それ以上に、自分の手元から離れたときに、残念だと探したいと思えるような物の扱い方ができると、物への愛着が感じられます。

落とし物の数が多いのも事実ですが、桃三小の生活の中では、「私の傘が見当たらないのです。」「移動ポケットを落としてしまったので、落とし物コーナーを確認していいですか。」という素敵な声も聞こえてきます。自分の物をきちんと管理し、それが無いことに困っている子どもたちの声です。物を大切にしようという目標はよく掲げられますが、私たちは子どもたちに大切の意味を実感できるように伝えていく必要があります。物を使用することに気持ち良さを感じること、ずっと使いたいと思えること、その物が良い状態であり続けることなど、さまざまな「大切」があります。それが自分の持つ物への愛着となって、子どもたち自身の物を大切に扱おうという振る舞いに繋がっていくと考えています。

◆委員会活動◆

4月27日、前期委員会紹介集会がありました。今年度の委員会は、代表、体育、放送、図書、発表、給食、保健、理科の8つから組織されています。道具の管理・点検、情報発信、検査など、仕事内容は多岐にわたります。委員長が中心となり、仕事の分担を行い、どの児童も熱心に仕事に取り組んでいます。学校の代表として責任をもち、学校生活を充実させるために活動することを通して、人の役に立つ喜びを感じてほしいです。

特別活動主任 小川 美樹

◆きまりを守り、安全な生活をしよう◆

学校の集団生活の中では、守らなくてはいけないさまざまな決まりがあります。それは、子どもたちが気持ちよく、安全に過ごせるようにするためのものもあります。「桃三小生活スタンダード」には、普段の生活の中で共通して守っていくべきことが載っています。ただルールを守らせるのではなく、何のためにその約束が必要なのか、守ることでどんな安全が得られるのかを考えさせながら指導していきます。